

2018年1月31日

報道関係者各位

慶應義塾

慶應義塾が全塾的学術・文化資料施設 「慶應ミュージアム・コモンズ（仮称）」を 2020年度中に開設

慶應義塾は、150年を超える歴史のうちに集積された学内の文化財や学術資料を、相互に連携させて活用し保存していくための新たな施設を構想してきましたが、このたび、「慶應ミュージアム・コモンズ（英語名：Keio Museum Commons）（仮称）」を2020年度に開設することを決定しました。立ち上げのきっかけとなったのは、一般財団法人センチュリー文化財団からの資料寄贈と30億円の寄付金です。

この施設は、三田キャンパス東側に隣接する本学所有地に新設を予定しており、2020年度内の竣工を目指して、現在詳細を検討中です。

慶應ミュージアム・コモンズは、資料を通じた領域横断的な研究・教育活動の発信と、慶應義塾が蓄積してきた先端的なIT技術を駆使した、アナログコンテンツとデジタルコンテンツの融合による新たな展示・収蔵モデルの提案を行っていきます。

1. 経緯

慶應義塾では、三田キャンパスの南別館アート・スペースをはじめ、いくつかの施設において展示活動が行われています。しかしこれまで、全塾的な学術・文化資料施設はなく、大学の知の伝統と現在を、資料を通じて伝える施設の開設が長年求められてきました。また、国宝や重要文化財をはじめ、各分野の貴重な文化財や学術資料も多く所蔵しており、それらの公開や教育・研究への活用の拠点となる施設の開設に向けて、関連部門を中心に検討を重ねてきました。

一方、慶應義塾は2009年に、一般財団法人センチュリー文化財団から、書跡・絵画資料を中心とした1,740点の美術資料の寄託とその活用のための寄付を受け、「センチュリー文化財団赤尾記念基金」を設けるとともに、大学附属研究所 斯道文庫（しどうぶんこ）において保管と活用を行ってきました。これらの活動に基づき、このたび、既存の寄託品に585点を加えた計2,325点の美術資料が慶應義塾に寄贈されることになりました。それに伴い、「センチュリー文化財団赤尾記念基金」にも追加寄付を受ける予定です。

この寄贈・寄付にあたって、資料のより一層の研究・教育での活用、また社会教育を促すべく、新たなコンセプトの全塾的学術・文化資料施設の設置が協議され、慶應ミュージアム・コモンズの開設を決定しました。寄付金はこの建設および学術資料の維持管理、研究等のために使用する予定です。

2. 開設スケジュール

- 2018年1月 慶應義塾学術資料展示施設（仮称）開設準備室を設置
- 2019年4月 着工（予定）
- 2020年6月 竣工（予定）
- 2021年3月 開設（予定）

3. 施設概要（予定）

- ・三田キャンパス（東京都港区）東側に隣接する本学所有地（現在の東別館がある場所）に新設する建物の一部を利用します。
- ・慶應ミュージアム・コモンズではさまざまな研究・教育活動を展開し、その成果を学際的なグローバル・ネットワークに発信していきます。そのために次の施設を備えることを検討しています。

- ① 文化財の収蔵に最適化されていると同時に教育・研究の場としても機能する収蔵庫
- ② 多様な展示展開を可能にするフレキシブルな展示室
- ③ 文化財の教育的活用を一貫教育校から大学院まで全てのレベルで展開するための特別教室
- ④ 学術・教育上の国際交流を促進する多目的コモン・スペース

4. 現時点での構想

○アナログ・デジタル融合型の収蔵・展示環境

慶應義塾は、学内の文化財や学術資料の活用と保存のため、既存の収蔵・展示施設を活かした「分散型ミュージアム」を構想しています。そのハブとなり、さまざまな活動への入口（ポータル）となるのが慶應ミュージアム・コモンズです。センチュリー文化財団から寄贈される美術資料および慶應義塾所蔵の文化財や学術資料を収蔵し、それらをデジタル空間において連携させることでアナログ・デジタル融合型の収蔵・展示環境を実現します。

○さまざまな教育活動

慶應ミュージアム・コモンズでは、多種多様な文化財を活用したさまざまな教育活動が実施される予定です。ミュージアム専門家の育成から、大学生や一貫教育校の生徒を対象とした体験型の教育、さらには最新の研究に基づく高度な生涯教育まで、多様な教育活動を検討していきます。社会教育施設として、地域に開かれたプログラムも展開していく予定です。

○領域横断的研究の国際展開、交流促進

慶應ミュージアム・コモンズは、慶應義塾の学術資料ネットワークのポータルとして、文化財を巡る領域横断的研究を、塾内外の研究者と共同で国際的に展開する場となります。

さらに、慶應義塾に関わるあらゆるコミュニティが、文化財を基点として交流し、新たな発想を育む場として機能させることをめざします。

○コンテキストの可視化と相互連携

先進的なデジタル環境を構築することにより、個々の展示資料が固有に持っている文化的文脈（コンテキスト）を、デジタル的に可視化します。さらに、慶應ミュージアム・コモンズを出発点として、学内の他の展示・収蔵施設や諸部門が管理する多様な学術資料を、コンテキストによって相互に連携させるバーチャルな仕組みを構築し、グローバルな学術資料ネットワークに接続していくことを想定しています。

○センチュリー文化財団寄贈資料の展示

寄贈資料の研究に基づいた展示を、年1回以上行います。

* ご取材の際には、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

* 本資料は文部科学記者会、各社社会部、教育部、文化部等に送信しております。

お問い合わせ先：慶應義塾広報室（竹内・渡辺）

TEL： 03-5427-1541 FAX： 03-5441-7640

Email： m-koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>